

令和4年度 事業報告書

社 会 福 祉 法 人 金 太 郎 の 家

デイサービス金太郎の家	地域密着型認知症対応型通所介護 デイサービス金太郎の家さざんか 地域密着型通所介護 デイサービス金太郎の家やまぶき 地域密着型通所介護 アクティブDAYいぶき 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所
金太郎の家 障がい福祉サービス 麦の家	居宅介護、同行援護事業所 就労継続支援B型・生活介護事業所 相談支援事業所 日中一時支援事業所
金太郎の家福祉移送サービス	一般乗用旅客自動車運送介護タクシー事業所 有償運送事業所
金太郎の家	集いの場 有償ヘルパー

令和4年度事業報告

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

社会福祉法人金太郎の家

I. 総括 (法人全体)

1. 法人のミッション

誰もが、尊厳をもって、いきいきと暮らせる地域づくりの一助となることを願って、活動を行いました。病気や、障がい、高齢など困難を抱えた方々の人権が守られ、住み慣れた地域において、その人らしい生活が継続できるよう支援することを目的として、事業に取り組みました。

2. 新型コロナ感染拡大による、大きな被害

コロナ感染も3年目に入りましたが、今年度はこの島根出雲地域においても感染が大きく広がり、第7波、第8波においては、感染者数が爆発的に増えました。当事業所においても、特に7月末から9月にかけて(第7波)と令和4年12月から2月にかけて(第8波)、利用者や職員に多数の感染者が出、これまでにない状況に陥りました。施設内の消毒、濃厚接触者のPCR検査に追われ、事業所の休業も余儀なくされました。第7波中の感染者数は、利用者14名、職員14名、自宅を訪問してのPCR検査は11回実施し、被検査者の延べ人数は、利用者125人、職員52人に上りました。事業所の休業は、デイサービスが、いぶき9日間、やまぶき4日間、さざんか3日間、麦の家3日間で延べ19日に及びました。施設内での感染と思われるケースもありました。第8波(11月末~1月)においては、感染者が利用者17名、職員10名で、入院されるご利用者もあり、予断を許さない状況でした。本人はもちろん家族の感染等により濃厚接触者となり休みを取らなければならない職員が続出し、一時は業務を回すのも大変な状況の時でした。ご利用者も出掛けることへの不安からデイサービスを休まれる方もあり、利用が低迷し、収入面でも大きな打撃を受けました。

しかし、この状況を全職員の協力により何とか乗り切ることができました。朝早くから出勤して、PCR検査に回る人、検体の搬送、保健所や家族、他事業所、ケアマネージャー・相談支援専門員との連絡、欠席した職員の勤務調整等、職員が役割を分担し力を合わせて危機を乗り越えることができました。

予防接種も、職員と一部利用者を対象に生協病院から来ていただき、5回実施しました。

3. サービスの利用状況及び、運営状況について

前述のとおり、新型コロナの影響を受けて、今年度の運営状況は昨年度よりさらに厳しい状態でした。しかしこの状況下でしたが、職員や関係機関の皆様の協力により、何とか黒字決算で終えることができたのは幸いでした。

令和4年度の事業活動収入は225,887千円、事業活動支出は212,415千円、事業活動資金収支差額は13,472千円、施設整備等資金収支差額は-10,023千円。当期資金収支差額は5,949千円でした。

利用件数については、総利用件数が29,904件で、昨年より1045件の増、利用料収入は212,854,982円で969万円の増でした。地域密着型デイサービス「アクティブDAYいぶき」を昨年度の2月に開設したので、事業収入は増えることを見込んでいましたが、コロナ感染拡大の影響等により全事業が低迷し、

このような状況に留まりました。特に第7波のため8月～9月、第8波と、雪の影響等により12月～1月においては高齢、障害とも通所系サービスは全体的に利用の落ち込みが大きくなりました。コロナ感染予防のため、施設入所されているご利用者は外出できなくなり、在宅の方も外出を控えられたため、移動支援や同行援護などの移動にかかわるサービスは激減しました。訪問系サービスも減少がみられました。

2月、3月頃より全体的に利用が再開し、収入面でも回復の兆しがみられます。

各事業の概況は下記の通りです。

(1) 通所介護事業

認知症型通所介護の年間延べ利用件数は、3,214件で145件の減、利用収入は43,973千円で1,632千円の減でした。コロナ加算も今年度はなくなり、厳しい収支となりました。平均利用人数は、12人に対して10.96人でした。

地域密着型通所介護やまぶきは3,478件で206件の減、利用収入は34,824千円で955千円の減でした。平均利用人数は、定員13人に対して11.48人でした。

アクティブDAYいぶきは、月水曜日は、半日ずつの利用時間設定にしていたのですが、午後の利用が少なく、水曜日は12月より提供時間を7～8時間に変更しました。よって比較は難しいのですが、年間の延べ利用件数は2923件、利用収入は22,846千円でした。立ち上げから1年たって、令和5年2月、3月には13人定員に対して10人前後の利用が確保できるようになってきました。事業対象者や、要支援の方が、多くご利用されています。

(2) 高齢者訪問介護事業

高齢者訪問介護や有償ヘルパーは5,243件で、昨年より149件の増でしたが、収入は47万円の減でした。訪問も、総合事業や有償ヘルパーの件数は増えていますが、収入としては減っている状態です。

(3) 障がいヘルパー事業

居宅介護や福祉移送は5,922件で127件の減、収入も37万円の減でした。同行援護は昨年に引き続きコロナのために利用は少なく、年間31件にとどまりました。福祉移送も78条、移動支援は微増傾向にあります。福祉タクシー（4条）は減少しています。

(4) 障がいデイサービス（生活介護、就労継続支援B型、日中一時）

就労継続支援B型の延べ利用人数は2,816人で、昨年より83人の減、76万円の減でした。生活介護の利用延べ人数は3,170人で776人の減、収入も345万円の大幅な減少となりました。通所されていた方が65歳になられ介護保険に移られたり、毎日ご利用されていた方が、退所されたこと、常勤看護師配置加算が算定できなくなることなどが響いたと思われます。

(5) 高齢者居宅介護支援、障がい者相談支援事業

高齢者居宅介護支援は、延べ1,806件で46件の減、収入は23,732千円で565千円の減でした。コロナ感染が広がっている最中には、ご利用者や家族のコロナの感染により、サービスの調整や医療機関、事業所との連絡調整等に追われました。障がいの相談支援は、延べ122件で10件の増でした。管理者件相談員が産休、育児休業を取ったため代替え職員を立てて業務を行いました。

(6) 地域貢献、福祉啓発事業

地域貢献活動としての地域交流行事は、コロナ感染のため余り行なえませんでした。買い物支援や各種地域貢献活動は、感染拡大の時期は、中止あるいは縮小を余儀なくされました。月1回行っている「くまの風呂敷隊」（一人暮らし買い物支援）は、感染が特に広がった6月、7月、8月、12月は中止しましたが、延べ38人の利用がありました。一人暮らしの方等への配食弁当は、継続して行い、延べ468食を提供しました。

4. より良い支援を目指して

(1) 感染予防のため活動範囲、内容の変更

コロナ下、感染予防が第一命題でしたので、手指の消毒、手すり、ドアノブ等の定期的消毒、換気、蜜を避ける等の対策を引き続き力を入れて取り組みました。活動棟には、感染予防のためアクリルパネルを設置しておりますので、活動もやりにくい面もありました。抗原検査キットを行政よりいただいたり、法人で購入したりして、感染拡大防止のために活用しました。

活動範囲も制限され、地域への外出はほとんど自粛し、ボランティアの受け入れも制限せざるを得ず、地域の方々との交流は例年のようにはできませんでした。

また、感染が広がっているときには、活動の内容も歌やゲーム等飛沫が多く飛散すると思われるものは中止し穏やかな活動にするなど、状況に合わせて変更せざるを得ませんでした。しかしそんな制限がある中でしたが、ご利用者と職員は充実した活動を目指し、様々な工夫をして取り組みました。

(2) リハビリを重視したデイサービス、生活介護の活動

通所系サービスにおいては、2名の理学療法士、1名の作業療法士を配置し、今年度もリハビリを重視した活動に取り組みました。リハビリ機器を使ったリハビリではなく、対面のぬくもりのある個別リハビリを中心において実施しました。また、集団でも体操や、体を使ったゲームなど、上肢下肢の運動を日々実施、天気の良い日には、散歩に出かけるなど、心身機能の維持向上に努めました。

麦の家生活介護においても、理学療法士による個別リハビリを実施し、脳梗塞による片麻痺や下肢障害のある方など、この個別リハビリをととても楽しみにされていました。

(3) デイサービスでの活動の様々な工夫

コロナ禍でありましたが、ご利用者の満足度を上げるため様々な工夫をしてサービスを提供しました。さざんかにおいては、引き続き今年度も働くデイサービスを目指し、空き缶のリサイクル活動や、畑での農作業、門松作り、とんど焼きを組むことなど、昔取った杵柄で様々なことに挑戦していただきました。空き缶についてはご利用者が自主的に作業に取り組み、つぶした缶を職員と一緒に業者に持っていき、いただいたお金でたい焼きを買ってくるなどの次の活動に発展していきました。麦の家前や、飛行場近くの畑では、サツマイモや、じゃがいも、玉ねぎなど就労事業所と協力したくさんの収穫がありました。また、デイサービスいぶき、やまぶきでは、毎週水曜日に相談室にて書道教室を開始し、希望者は熱心に取り組みされました。またボランティアの指導による手芸、職員による手品教室など様々なアイデアで変化を付け提供しました。

(4) 地域との交流、地域の方々に支えられて～初めての麦の市

前述のとおり、地域との交流はコロナのため例年ほどできませんでしたが、就労継続支援B型事業所では、12月に初めての試みとして「麦の市」を開催しました。麦の家で制作したものやデイ利用者が作

られた野菜、ボランティアさんや地域の方が寄せて下さった花、苗など販売しました。利用者のご家族や地域の方が100名余り来店して下さり、盛会でした。

斐川の社会福祉法人の会として、地域のサロンや社協の会などに出かけ、歌に合わせた体操やリハビリ、認知症の話など行い、好評でした。地域のコミュニティセンターの文化祭は展示のみの開催でしたが、ご利用者が作られた作品等展示させていただき交流できました。

他にも、本部玄関に飾る花を時期ごとに届けて下さる方、就労で販売するもったいない野菜を提供くださる方、楠や椿の苗木や挿し木をもってきて新施設に植えてくださる方等、たくさんの皆様に支えられての1年でした。

(5) 地域密着型通所介護運営推進会議の開催

地域密着型通所介護では、年間2回の運営推進会議の開催が義務付けられていますが、コロナのため第1回目は書面にて行いました。通所の利用状況、活動内容法人の事業計画、アクティブ DAY いぶきの活動状況等を写真で紹介し、斐川安心支援センターの方、ご利用者の代表、ご家族、地域の代表の方からご意見をいただきました。第2回目は、10月28日に開催し、調理師から厨房の様子、食事を提供するうえで工夫していること、SDGsの試みなど紹介し、貴重なご意見アドバイスをいただきました。

(6) 各部署分科会の開催

職員会は中止することが多かったですが、部署ごとの分科会は感染防止対策を取りながら継続して実施しました。ご利用者へのより良い支援に向けて情報共有、ケースカンファレンス等行い、意見を出し合いました。居宅介護支援事業所は、毎週分科会を開催し情報の共有やケース検討を行いました。

(7) 苦情処理第3者委員会の開催

苦情処理第3者委員会を、6月21日、10月11日、3月8日の3回開催しました。苦情、事故、ヒヤリハットについて報告し、第三者各委員の方々から貴重な意見やアドバイスをいただき、現場に生かすことができました。委員会以外にも、問題が起きたとき相談させていただきました。またご利用者と直接会って話を聞いて下さったこともありました。

(8) 職員研修

施設外研修は、ほとんどがリモートにて行われ、中止となった研修も多くありました。コロナ禍前ほどの受講件数はありませんでしたが、リモートにより、中央の講師による貴重な講義を受けることができました例もありました。職員もリモートでの研修に大分慣れてきたように思われます。

施設内職員研修については、職員会を今年度は3回しか開催できませんでしたが、研修資料を配りレポートを提出するという形で研修を継続しました。11月には、全職員を3班に分け、理学療法士、作業療法士から介護方法の実習を行ない、充実した研修となりました。

月	内容	備考	月	内容	備考
4月	金太郎の家の歩みと理念	対面研修	10月	—	—
5月	—	—	11月	「介護技術研修」3班に分けて 実施PTが指導	実技研修 感想の提出
6月	—	—	12月	業務振り返りシート提出	提出
7月	「認知症について」	書面	1月	「虐待防止～不適切なケア」	書面

	丹野氏の資料を読んで	レポート提出			レポート提出
8月	丹野智文氏のレポートから	書面	2月	「介護支援職の客観力と自己管理能力」	対面講義 レポート提出
9月	法令遵守規程について	書面	3月	令和5年度事業計画	—

5. 職員～互いに助け合い、補い合って乗り越えた1年

今年度は、4名の職員を新たに採用し、介護休暇中であった1名が職場復帰して、70人余りになりました。3名の職員が元気な赤ちゃんを出産し、産休、育児休業を取得しています。

コロナ禍、日々感染予防に追われ、気持ちの休まらない1年でした。コロナ感染、濃厚接触などで休業せざるを得ない職員が続出する中、各部署の職員が互いに補い合い、力を合わせて事業を継続、無事に1年を終えることができました。

各事業の実施状況

■法人本部

(1) 理事会、評議員会の開催

今年度は3回の理事会と1回の評議員会を開催しました。地域に根差した法人活動の展開に向けて意見交換が行われました。また、内部監査、監事監査も実施しました。

理事会、評議員会の開催内容は次のとおりです。

〈令和4年度 理事会〉

会議名	日時	出席者数	議事
第1回理事会	令和4年6月7日 (火)18:30~19:30	理事7名 監事1名	○令和3年度事業報告(案)について ○令和3年度決算報告(案)及び財産目録(案)の承認について ○令和4年度第1次補正予算(案)について ○評議員会の招集について
第2回理事会	令和4年12月12(月) 18:30~19:45	理事7名 監事2名	○令和4年度第2次補正予算(案)について
第3回理事会	令和5年3月22日 (水)18:30~20:15	理事7名 監事2名	○令和4年度第3次補正予算(案)について ○令和5年度事業計画(案)について ○令和5年度当初予算(案)について

〈令和4年度 評議員会〉

会議名	日時	出席者数	議事
定時評議員会	令和3年6月24日 (金)18:00~19:30	評議員8名 監事2名	○令和3年度計算書類及び財産目録の承認について

(2) 福祉啓発、地域交流事業

①介護の集い

コロナ感染予防のため、今年度は開催できませんでした。

②地域交流行事等

「おちらとウォーキング」「夏休みこどもクリーン活動&交流会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

「荘原コミュニティセンター文化祭」への参加は展示のみとなりました。詳細は下記のとおりです。

事業名	開催日	開催場所	対象	活動の内容、様子など
荘原コミセン祭への参加	令和4年 10月15日(土) 16日(日)	荘原コミュニティセンター	荘原地 区の方	デイサービス、麦の家利用者の作品を出品。

(3) 情報の発信

機関紙『金太郎だより』を年3回発行しました。ホームページ、フェイスブックでも活動の様子や行事のお知らせ等こまめに発信していきました。

(4) 厨房

1. 活動内容

- ・朝のお茶口、昼食、午後のおやつ、配食弁当、遅番夕食、宿泊の夕食の調理、後片付け
- ・献立作成、食品の発注、食材買い出し、食品払い出し簿の記入、衛生管理簿の記入 ・検便の実施

2. 利用状況・利用傾向(活動の様子)

- ・介護保険御利用者38名、集いの場御利用者5名～20名、就労・日中16名～22名、配食弁当週10～13食、遅番夕食は必要時のみ。
- ・特別食(ペースト食、刻み食)の増加に伴い個別対応しました。
- ・アレルギーのある方や、好き嫌いの有る方の個々への対応をしました。又、調理当日の健康状態の情報をデイの職員から得る事で、体調に合わせた食事を提供しました。
- ・毎年恒例の蕎麦打ちを開催しました。
- ・コロナウイルスの流行で中止していた季節のクッキングを行いました。又衛生面に注意しながら、その日の加熱する食材等の下処理を活動の一環で行って頂きました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・個々の食事形態、嗜好を考えながら、衛生的に調理を行いました。
- ・旬の物を取り入れ、目先の変った献立の作成をしました。
- ・午前午後のお茶口、おやつ作り。午後の飲み物をご利用者に選んで頂き水分補給をして頂きました。
- ・季節感を大切に食事作りと行事に合わせた食事作りをしました。
- ・食材費の高騰に伴い、外部への買い出しを行い、給食費の節約をしました。
- ・職員同士、協力して食事作りを行いました。
- ・午睡起きの水分補給(レモン水)、午後のお茶を自由に選んで頂く事で少しでも多く水分補給を促すこ

とが出来ました。

- ・食事伝票を活用するようになり、ご利用者一人一人の情報を確実に共有出来るようになりました。
- ・コロナウイルスの流行にて、朝夕の消毒の徹底を行い衛生面には一層気を付ける事が出来ました。
- ・SDGsの取り組みで一日、2.5kg～3.0kgの生ごみを肥料へ変えることが出来ました。

4. 反省点 課題

- ・食品の取り扱いや保存等の管理の徹底を継続して行います。
- ・食事のマナー化に気を付け、ご利用者の嗜好にあった献立作成を行いたいと思います。
- ・三ヶ所の食事作りを行っているので、時間の余裕があまりありませんが、職員みんなで声を掛け合い円滑に仕事出来るように日々努力していきます。
- ・今後も断続して出来る事は行い、ご利用の方に喜んで頂ける食事作りを行っていきます。

(担当：手島南美)

■高齢者支援に関する事業

1. 老人デイサービス事業

(1) 地域密着型認知症対応型通所介護 さざんか

1. 活動内容

- ・9:15～16:30を提供時間として、さざんかの活動棟にて、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、外出等）、入浴サービス、食事やおやつ提供などを行っています。
- ・音楽に合わせて歌ったり、マジックショー、脳トレ、畑へ出掛けて玉ねぎ、さつま芋の苗植えから収穫、キュウリの収穫、手作業では笹巻作り、筍の皮むき、ドクダミの処理、極小黒豆の選別、フキの皮むき、ポットの苗植え、ラッキョウの根切りからラッキョウ漬け、柿の収穫から合わせ柿、干し柿作り、空き缶つぶし、地域交流として、荘原コミセンの作品展示を行いました。
- ・季節の行事として、畑で収穫したさつま芋で焼き芋パーティー、クリスマス会や節分、とんどさん、初詣参拝なども行いました。
- ・また、季節に合わせての花見のドライブ、神社の参拝や周辺散歩、外出なども積極的に行っています。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に対応するため、感染症対策を万全に行いながら、デイ利用に関してご利用者・ご家族様・職員に対し、県外への不要不急な外出の自粛、また、ご家族の特に蔓延地域からの帰省等の事前報告等文書でお知らせして参りました。その結果、デイの利用を控えて頂いたり、ご自分から休まれる方が多少いらっしゃいました。一日の利用人数の平均としては12名の定員に対して10～11人のご利用でした。月々の利用者数を見ると、8月1日～3日コロナ休業の為270人、11月29日、30日コロナ休業の為258人でした。R5年1月25日、28日は大雪の為休業し212人と厳しい利用状況となり実績が減少しました。
- ・今年度の男女比が14：15であり、3か所のデイでは男性の利用者の方が多い状況でした。
- ・ご家庭の都合などで、ご希望のある方は延長サービスとして、夕食を提供してからお送りしています。7月に2件、8月1件ありました。有償デイのご利用は、4月3件、5月2件、6月～9月は1件ずつ、R5年2月はご家族の希望で月、水の利用で10件、3月は13件ありました。宿泊サービス5月

～10月に1件ずつご利用がありました。

3. 今年度、力を入れて取り組んだこと 効果

- ・働くデイという事で今年度も男性の利用者の方を中心に取り組んで下さった缶つぶしですが、女性の利用者の方も協力して下さりリサイクル商店へ持って行き、機械のセッティングから潰して仕分け、片付けまではほぼ自分達で調達して下さっています。豆出し作業では、金太郎の家の畑で育てた極小黒豆や、営農組合で作られた白大豆の収穫後の田んぼに残った大豆を許可を得て貰って帰り、デイの皆さんは一つ一つ手で出されています。空港近くに借りている畑と麦の家に畑があり、そこで玉葱やさつまいもジャガイモ、キュウリ等を作っています。もったいない野菜の販売では、出荷できない規格外の物は廃棄されるとの事で、それを頂き皆さんに綺麗に掃除して頂いています。今年も正月準備として、門松づくりも体調を崩され休まれる利用者の方も多い中、皆さんで協力して今年も立派な門松を作って下さり、別館本館に飾りました。9月には、敬老会で、職員が協力してパフォーマンスをしたり、利用者の方中心に銭太鼓を披露して下さり皆さんに楽しんで頂きました。午後のおやつ作りでは、団子を丸めたり、ホットプレートで焼いたりしていただきました。
- ・三か所のデイになり、今まで以上に職員間で情報共有するため、デイのノートの活用、月一回の分科会にて利用者の方の状態や注意点などを共有し、転倒防止、薬の確認を再確認し、職員間で確認するよう話し合いました。
- ・机の配置や椅子の置き方などその日の利用者の方が過ごしやすい雰囲気作りが出来るよう提供し、その日の体調に合わせ、個別対応し、利用者様に寄り添い付き添って対応しました。

4. 反省点 課題

- ・今年度もコロナウイルスの関係で、地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、地域との交流が持てない状況でした。その中でコミセンの文化祭には作品展示を行いました。外部との交流は出来ませんでしたが、花見ドライブや周辺散歩、室内での活動を職員間で話し合い利用者の方の希望を聞きながら活動を行いました。
- ・玄関の所を板張りにして活動スペースが広がった所で、作業して頂く機会も増えましたが、玄関と作業する所が同じという事もあり、利用者の方が快適に過ごしていただけるような環境整備、活動内容を行っていく必要があります。別館のデイとなり、離れている事もあり急な対応に戸惑う事もあったので、本館との連携を取りながら利用者の方の情報共有の確認、送迎時の声掛け確認の徹底の必要性を感じました。
- ・重度な認知症の方への対応や、帰宅願望がある方への対応、迎え時の拒否のある方、入浴拒否のある方について困難を感じる場面が多々ありました。様々な認知症へ対する理解や、実際の対応方法についてこういう声掛けをすると良かったという成功例を職員間で共有し検討していく機会を作って、利用者の方が今以上に来て良かったと思えるよう支援させて頂きたいと思います。

5. その他

- ・新型コロナウイルスの蔓延予防対策として、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を使い、ハード面では飛沫防止パネルや空気清浄機、音響機器を設置し、ソフト面では、職員の感染症対策に関する意識の向上を図り、消毒、マスク着用、手洗い・うがいの励行等の徹底に努めてきました。また、利

用者とスタッフの健康管理（検温・体調観察）を習慣化してきました。さらに、一人ひとりが除菌の意識をしっかりとった行動をとる事が重要と考えます。

- ・R5.3月現在、個別機能訓練加算7名を算定しています。認知症対応型ということで、リハビリとして個別で行うほかに、入浴に向かう際に歩行練習を行ったり、トイレ動作の際に立位練習などを行ったり、昼の部屋に座る時ドスンとならない動作、そこからの立ち上がり動作等、ご利用の生活の中でリハビリを行うことが多いです。今後も、生活の中でいかに効果を高めることが出来るか、考えていく必要があります。

(担当：古川容子)

○利用件数 定員12人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	263	276	272	287	270	284	285	258	253	212	258	296	3214
平均	10.11	10.61	10.46	11.03	11.25	10.92	10.96	10.75	9.73	9.63	10.75	10.96	10.59

(2) 介護保険 地域密着型通所介護（総合事業含む）やまぶき

1. 活動内容

- ・9:15～16:30をサービス提供時間として、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、手作業、外出等）、入浴、リハビリ、食事やおやつを提供などを行いました。
- ・居宅支援事業所からのケアプランに基づき、個別援助計画を作成しご利用者がその能力に応じて自立した日常生活を営めるよう援助しました。定期的及び必要時にモニタリング（アセスメント作成）を行い、計画を見直しご利用者の状況、ご希望に添ったケアの提供に努めました。
- ・リハビリ的視点に立ち、PTが中心となり生活の活発化に向けた支援を行いました。周辺の散歩をはじめ、野菜の下処理、畑での野菜（玉葱・さつまいも等）づくりや下肢の筋力の維持、向上の取り組みを実施しました。
- ・レク活動では、脳トレを希望される方も多く、クロスワードや間違い探し、歌当てクイズ等の活動も取り入れ、楽しみながらも達成感を感じて頂けるよう配慮しました。また新しい建物には、大画面のテレビがあり、新しくYOUTUBEを使っての脳トレ、体操等もしました。下肢の筋力維持向上ため新聞紙、ボール、手拭い等の道具を使って下肢の運動やリハビリ体操、歌（二輪草・365歩のマーチ・高原列車は行く、きよしのズンドコ節等）に合わせての体操も行ないました。ギター演奏に合わせての合唱や、マジックショーも観賞されました。天気の良い日には、外気浴をしながら、やまぶきの縁側の所の外に出て皆さんで歌を歌いました。地域との交流はコロナの関係で通常よりは少なく、荘原公民館での文化祭に作品展示等を行いました。
- ・季節行事としては、敬老会（職員とご利用者の銭太鼓、職員のマジックショー等）、おはぎ作り、クリスマス会、初詣、とんどさん、節分などを行いました。敬老会での、職員とご利用者の銭太鼓は即席でしたが、出演されたご利用者も昔を思い出して快く披露してくださり、見られたご利用者もとても喜んでくださいました。
- ・手作業では、毎月のカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、また季節の野菜の下処理（筍・ドクダミ・柿・

- ラッキョウ、梅、蒨) や料理・おやつクッキング等を実施し、慣れた手つきで熱心に参加されました。
- ・働くデイを目指し、ハブ茶の豆出し作業やシート交換、小豆の選別、野菜の下処理、玉ねぎの根切り・ネギの下処理等の作業に意欲的に参加されていました。
 - ・ご希望の方に水曜日に習字、手芸に参加して頂いています。書かれた習字を活動棟に貼らせていただいています。

2. 利用状況、利用傾向

- ・今年度も、新型コロナウイルスの全国的な蔓延となり、金太郎の家でも感染が確認され、休業をしなければならない事態がありました。感染症対策を万全に行いながらも、デイ利用に関し、利用者様・ご家族様・職員に対し、県外への不要不急な外出の自粛、また、ご家族様の帰省等の事前報告等文書でお知らせして参りました。デイの利用を控えて頂いたり、ご自分から休まれる方もいらっしゃいました。一日の利用人数の平均としては13名の定員に対して11.4人のご利用でした。月々の利用者数を見ると、8月が257人で(8/1～8/3, 8/12) コロナの為に4日間休業、9月が286人で(9/3) コロナの為に1日間休業、(9/19) 台風の為に午後休業、1月が257人で(1/25, 1/28) 大雪の為に2日間休業し実績が減少しました。
- ・男女比では圧倒的に女性が多く40人に対して男性は1人でした。
- ・前年度より登録者数は減少し、登録者全体で41名の内、事業対象者の方が2名、要支援の方が11名で3分の1は軽度の方でした。支援ではありますが、入浴希望が多くあり、入浴の加算はありませんが、入浴されました。また、一週間の内1～2回の利用だったり、月に1～2回の利用の方がおられたりした為、全体の利用者数としては多く、評価を書く際の人数も変わらず多くありました。また、全体の平均要介護度は、1.72で、要介護1、2の方が全体の51%を占めています。
- ・年齢別では、平均年齢が87.62歳で80代90代の方が全体の95%でした。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・新しい建物でご利用者に安心して過ごして頂けるように、移動の際には、分かりやすい声掛け、移動場所への案内をしました。ご利用者も徐々に慣れてきておられます。
- ・利用者様のケースファイルの各重要書類の有無・点検確認作業をしています。介護保険証、自己負担割合証、ケアプラン、個別ケアプラン、評価表等をチェック項目毎にまた時系列に確認しています。このことにより、ケアプランに基づき適切に援助が出来るかどうか再認識でき、評価はもちろんのこと、定期的なモニタリングによる計画の見直し、利用者ご本人の状況や要望に寄り添えるケアの提供の一助になると考えています。
- ・曜日にもよりますが、杖歩行やスキーウォーカー、サンフィールを使用される方が多く、状態が悪化すると車椅子移動となることがありました。室外、室内共に移動時は出来るだけ見守りや付添を行いました。周辺の散歩時も車椅子を使う方が多く安全に配慮した対応をしました。
- ・回想法の導入やアクティビティ、レクリエーションのバリエーションを駆使し、認知症予防、身体的機能維持向上を図るため、充実したデイでの生活を過ごして頂けるよう取り組んできました。特に、利用者様の人生観(生きざま、価値観)や趣味、特技等を十分に把握することで、輝ける場や居場所の提供への支援を強化してきましたが、今現在試行錯誤の段階で、小さなことから一つでもできればと考えて

います。

- ・活動では、毎月壁面を飾るカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、工作等をして頂きました。脳トレを希望される方には、クロスワードや間違い探し、計算ドリルの活動を実施し達成感を感じて頂けるよう配慮しました。
- ・野菜の下処理や、蒨・玉ねぎ・ネギ・筍の下処理、黒豆の豆出し、ハブ茶の豆出し、小豆の選別、山椒味噌作り、おやつクッキングの手作業も皆さん生き生きとされました。このことによって、社会の一員としての意識回復の一助となったのではないかと考えます。今後も継続できればと考えます。
- ・PTの指示にてホットパックを実施していますが、希望者が多い為確認しながら施行し喜ばれました。PT・OTによる温もりのある個別対応（機能訓練）や対話は非常に喜ばれ、体調についての相談もできる事から感謝の言葉が多く聞かれました。また「帰ってからも、ここでリハの方に教えてもらったことをやっているよ。」とおしゃってくださる方もいらっしゃいました。

4. 反省点 課題

- ・今年度もコロナウイルスの関係で、地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、地域との交流が持てない状況でしたので、次年度はコロナウイルス感染状況を把握しながら是非行いたいと思っています。なお、公民館の文化祭には作品展示を行いました。
- ・ベッドで午睡を希望される方が多く、ベッドの準備や片付けにスタッフの負担が大きく、OT・PTに応援してもらいました。簡易ベッドでもあり、また、毎日ベッドを動かすので故障をし易いので気を付けて行く必要があります。
- ・新しい建物へ昨年の4月1日から移動しましたが、以前よりトイレまでの距離が長く、場所がわからなくなられるご利用者がおられます。その都度、ご案内しています。今後も、安心して過ごして頂けるように、移動の際はご案内していきたいと思えます。
- ・ご利用者の歩行状態の悪化等により、スキーウォーカーやサンフィール等の歩行器使用の頻度が増え、現在の台数では不足する時もありました。PTと検討し、歩行の安定されてきた方に、杖での室内歩行をお願いしたこともありました。
- ・午前中に活動棟の職員が2人になり、トイレに付き添うと手薄になることがある為、他部署から応援してもらっています。午睡中も他部署やPT・OTに応援してもらっています。ご利用者に安心して過ごして頂くことができます。

5. その他

- ・新型コロナウイルスの蔓延予防対策として、ハード面では飛沫防止パネルや空気清浄機、ソフト面では、職員の感染症対策に関する意識の向上を図り、消毒、マスク着用、手洗い・うがいの励行等の徹底に努めてきました。また、利用者スタッフの健康管理（検温・体調観察）を習慣化してきました。今後さらに、一人ひとりが除菌の意識をしっかりとった行動をとる事が重要です。
- ・R5.5 現在、個別機能訓練加算14名、運動器機能向上加算8名を算定しています。3か月ごとに歩行速度等の評価を行い、身体機能の評価・プログラムの変更を行っています。在宅生活を把握し、具体的な目標を設定し、利用者様と話し合いながら進めております。足の力が付いたという身体機能の向上だけでなく、生活の中での向上が見られています。

(担当：高木久美子)

○利用件数（定員 13 人）延べ人数下段は総合事業利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ 人数	230 (69)	230 (65)	228 (66)	244 (60)	211 (46)	232 (54)	252 (58)	247 (59)	238 (59)	207 (50)	211 (52)	251 (59)	2781 (697)
平均	11.50	11.34	11.30	11.69	11.17	11.44	11.92	11.76	11.42	11.68	10.95	11.48	11.47

(3) 介護保険 地域密着型通所介護（総合事業含む）アクティブDAYいぶき

1. 活動内容

- ・サービス提供時間を1日コース（火水木金土、9:15～16:30）と半日コース（月、9:15～12:30 と 13:25～16:30 12月からは水曜日は1日コースに変更）として、送迎、健康チェック、様々な活動（レクレーション、手作業、外出）、入浴、リハビリ、食事やおやつを提供を行いました。
- ・ケアプランに基づき、個別援助計画を作成し、ご利用者が住み慣れた自宅での自分らしい生活が継続できるよう支援しました。定期的及び必要時にはモニタリング（アセスメント作成）を行い、計画を見直しご利用者の状況、希望に添ったケアの提供に努めました。
- ・レク活動では、自由に活動でき、活動内容も自分で選択できるよう支援しました。
- ①脳トレクイズを希望される方が多く、特に間違い探しクイズは好評でした。その他、○×クイズや県名当てクイズ、歌当てクイズ等、幅広い分野のクイズを提供し試行錯誤されながらも、達成感を楽しんで頂けるようなメニューを提案しました。
- ②教養趣味活動の場として、外部講師による書道・手芸教室や手品教室の時間を設け、新たな学びや好きなことをより深くより楽しく過ごして頂きました。
- ③回想法として同年代の方と楽しく話して頂けるように、その都度話題を提供し、子供の頃・若い頃のお話を伺い、他者との交流に配慮しました。
- ④スカットボールゲームや輪投げ、射的ゲーム等道具を使った身体的機能向上の為の運動ゲームも積極的に参加して頂きました。
- ⑤季節行事として運動会、敬老会、クリスマス会、初詣、とんどさん、節分等を開催しました。また、日々の活動として、桜、つつじ、菜の花等の花見外出や毎月の誕生会を行いました。
- ・リハビリ的視点に立ち、手作業ではシーツ交換、野菜の下処理、豆の選別、カレンダー作成、クッキング等行い、特にカレンダー作成では、紙ちぎりや貼り絵作業を熱心に取り組まれました。
- ・個別リハビリを重視し、日常生活に必要な生活機能を維持する為、個々の状態にあったプログラムを作成し、理学療法士、作業療法士による肌の温もりを感じられる、在宅での生活に結びついたリハビリを提供しました。
- ・食事は季節の食材を使用し、ご利用者に合った食事形態によりおいしく、楽しい食事を提供しました。

2. 利用状況、利用傾向

- ・3月末現在で、ご利用者は51人です。介護度別人数としては、以下の表のとおりです。

要支援 1	要支援 2	事業 対象者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均 介護度
2人	8人	7人	17人	9人	4人	4人	0人	51人	1.12

・3月末現在で、年齢別登録者状況は、以下の表のとおりです。

50/60代	70代	80代	90代	100代	合計	平均年齢
3人	4人	30人	14人	0人	51人	85.51歳

・男女比は19：32でありました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・令和4年2月1日に新しく地域密着型通所介護事業所（定員13名）を開設しましたが、開所当初は利用者が少なく、新規利用者の獲得を最優先課題として、居宅支援事業所に対し広報営業活動の徹底強化を図りました。また、新規利用者の継続利用（リピーター）の定着強化の為、サービス提供内容の充実及び他デイサービスとの差別化のためのツールの構築に重点を置き取り組みました。
- ・すべてが新規利用者の為、各重要書類（介護保険証、自己負担割合証、アセスメント表、ケアプラン、個別ケアプラン、評価等）をその都度確認しました。都度の確認によりケアプランに基づいた適切なサービスが提供できているかどうか再認識する手段となり、プランの見直しや利用者本人の現在の状況や要望に即座に対応できるケアの提供の一助となると考えています。
- ・利用者とのコミュニケーション強化、顔馴染みの関係作りの為、ベテラン職員と新人職員とのバランスの取れた配置など日々の職員体制の構築に配慮しました。
- ・新事業所の特色としての、①利用時間が選択できる②在宅生活に結びついたリハビリ③教養趣味活動の実施を重点に取り組みました。

4. 反省点 課題

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、飛沫防止パネルや空気清浄機の設置、消毒、マスク着用、手洗い・うがいの励行、換気等の徹底強化に努めてきましたが、施設内利用者及び職員のコロナ感染が発覚し、8月に7日間、9月に2日間、残念ながら休業を余儀なくされました。その際には、利用者・職員のPCR検査や抗原検査を事業所内及び利用者自宅訪問により実施し、更なる感染拡大の予防を行ったことは、適切な対応であったと考えます。また、台風の関係で1月には2日間休業しました。その為、地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、地域との交流が持てない状況でしたので、次年度は新型コロナウイルス感染状況を把握しながら是非行いたいと思っています。
- ・リハビリ、入浴希望の利用者が多くなりきめ細かな対応が出来ないことがあり今後検討が必要です。
- ・住み慣れた我が家での生活を全力で応援するためには、まず、この事業所の運営を安定させ、より良いサービスをスムーズに提供し、地域に根付き認められる事業所となるように努めなければと考えます。具体的には、水曜日の午後の半日コースに利用者がいなかったことから意向調査等を行い、午前コース利用者を時間延長して1日コースへの変更を了承して頂きました。また月曜日の午前午後の半日コースも今後意向調査を経た上で変更を検討する必要があると考えます。

（担当：稲垣長郷）

○利用件数（定員 13 人）延べ人数下段は総合事業利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ 人数	157 (50)	171 (59)	161 (63)	175 (67)	131 (67)	162 (53)	202 (67)	203 (68)	187 (57)	172 (81)	217 (62)	227 (64)	2781 (697)
平均	7.96	8.84	8.61	9.30	9.90	8.95	10.34	10.42	9.38	11.5	11.62	10.77	10.78

○延長サービス、宿泊サービス、有償デイサービス 延べ利用件数（さざんか、やまぶき）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延長サービス	0件	0件	0件	2件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	4件
宿泊サービス	0件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	6件
有償デイ	3件	2件	1件	1件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	10件	19件

（４）自主デイサービス（集いの場等）

1. 集いの場の活動

地域の高齢者、障がい者を対象に「集いの場」の活動を行いました。「金太郎倶楽部」「金太郎大学」「歌う青空の会」「なごみ川柳会」「木曜会」の5グループに分かれ、金太郎の家別館にて活動しました。火曜日、金曜日と隔週の木曜日に開催しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を中止した月もありました。

各グループの活動状況は、下記の通りです。

	R4年度集いの場 利用状況											
	歌う青空		木曜会		金太郎大学		川柳		金太郎倶楽部		合計	
	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	延回数	延人数
4月	1	9	2	15	1	12	1	4	3	26	8	66
5月	1	8	2	20	1	16	1	4	3	24	8	72
6月	1	12	2	22	1	16	1	5	3	27	8	81
7月	0	0	0	0	0	0	1	投句会	1	9	1	9
8月	0	0	1	8	0	0	1	投句会	1	7	2	15
9月	1	9	2	18	1	7	1	2	4	39	9	75
10月	1	5	2	19	1	11	1	投句会	3	32	7	67
11月	1	7	2	20	1	11	1	4	3	30	8	72
12月	1	8	1	7	0	0	1	投句会	2	22	4	37
1月	0	0	2	15	1	9	1	投句会	3	29	6	53
2月	1	5	1	7	1	10	1	投句会	2	18	5	40
3月	1	6	2	16	1	12	1	5	4	35	9	74
合計	9	68	19	167	9	104	12	24	55	523	75	661

ア. 金太郎倶楽部

1. 活動内容

- ・体操・脳トレ・歌に加え、会員から新聞の切り抜きや話題提供を頂き、取り組みました。
- ・四季折々のドライブ・外出・見学等皆さんからの要望を取り入れて、自発的な活動を展開しました。

2. 利用状況・利用傾向

- ・今年度は、コロナの影響等で第1、2、3、5金曜日の開催でした。
- ・毎回6～12名のご利用があり、参加者は出欠カレンダー活用し、意欲的に出席されました。
- ・参加者の中には、デイサービス・他施設との兼用の方も増えてきました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・コロナ禍の中、予防の為に毎回利用前の検温・乗車前の手指消毒・到着後の手洗い・うがい、声がけ励行、パーテーション使用も定着し、活動中の消毒・換気も皆さん協力的でした。
- ・フォークソングの集い、音楽会や大人の新聞教室等新しい試みで良い刺激になりました。
- ・今年は特に、工作が得意なボランティア指導の元、手先を使った壁絵(季節の花々、雪だるま、リース、破魔矢等)作りを楽しみながら取り組み、別館玄関やコミセン文化祭を彩りました。又、笹巻作り等季節の行事食を皆さんで作ったり、長年継続してきたコウノトリ見守りを今年も実現できました。
- ・日本画展、キルト展、ベンガラ染展など良い機会に出かけ、鑑賞され、会員のいい刺激になりました。
- ・年初めに習字でご自分で目標を各々書いて、心新たに向って行く事ができました。

4. 反省点 課題

- ・庭・畑付きの環境に移りましたが、週1回の活動となり、あまり活かせる事なく1年が過ぎました。
- ・デイ兼用の方も多くなり、スタッフで情報把握や共有がスムーズにいきませんでした。

5. その他

- ・7、8、12、2月とコロナ予防の為に、部分的に倶楽部が中止となりました。

(担当：嘉藤敬)

イ. 金太郎大学

1. 活動内容

- ・宍道氏による定期的な講義『神庭の由来と錦織竹香』『旧大社基地とその周辺』『斐川の農耕』『神無月とからさで』等勉強しました。又、出雲弁の会による『出雲弁交流』昌子氏による『斐川・災害に備えて』幸田氏による『チャット旅行記』五百川氏による『菅原道真公の生涯』の講義で勉強しました。
- ・その他、社会問題や時事等の問題について皆さんで意見交換されました。

2. 利用状況・利用傾向・活動の様子

- ・毎月第4金曜日。今年は、コロナ感染予防の為に、R4年7、8、12月と休会しました。
- ・会員の方約11～16名のご利用に加え、当日さざんかより3名参加もありました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・斐川町(文化・教育・産業・偉人)について学び、皆さんから活発な意見や昔話が出ました。
- ・コロナの影響で、今年度も大学公開講座が実現しませんでした。荒神谷博物館のホールにて『斐川の農耕具』展示を皆さんで見ながら、講義や会員の方々の実体験談も伺う良い機会となりました。

4. 反省点・課題

- ・長年ボランティアとして下さっていた昌子氏のご都合で辞められる事となり、令和5年度以降の講義を地域のボランティアの方々に呼び掛けて、協力を仰ぎ、計画を少しずつ固めてきました。まだ検討が必要な月を皆で話し合っています。

5. その他

- ・感染予防に努めながら、自発的な活動を目指していきます。

(担当：西博美)

ウ. 歌う青空の会

1. 活動内容

- ・「〇月と言えば？」と季節感や月の歌を連想して引き出しました。
- ・曲の背景やエピソード等紹介し、時代を遡り、ご自身がどうその時代を生き抜いて来られたのか、歌と共に回想して頂きました。
- ・懐メロについては主として昭和の曲を中心に年代を追いながら選曲し、「私の好きな歌」からリクエスト曲を懐メロコーナーでのプロジェクターを用いて歌手の映像を視覚的にも楽しんで頂きました。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第2火曜日。5～11名のご利用でした。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・今年度も、会員の方でピアノ演奏が得意な方が、季節の歌をキーボード演奏して頂きました。
- ・引き続きコロナ感染予防の為、常にマスクを付けて、「楽しく歌う」ことを意識して頂きました。
- ・歌の合間に、CDによる体操を入れて、十分に身体を動かして頂きました。
- ・上記のように、曲の背景やエピソード、懐メロについては歌っている歌手のエピソードなどを事前に調べて披露しているが、喜ばれているので、今後も継続していきます。

4. 反省点 課題

- ・引き続き、検温・消毒・換気等、声を掛け合って、基本的な予防策を継続していきます。
- ・メンバーも年齢と共に当初より ADL の低下がみられる方も増えてきているので、参加者の体調等にも引き続き注意を払っていきたいです。

5. その他

- ・体操や脳トレ等取り入れて、気分転換や体力作りに努めていきたいです。
- ・利用者が演奏される事で、得意な事をする事その人にとって役割が出来、生きる張りとなり、自分の培ってきた技能を提供できる場になる事はとても良い事だと思うので、継続していきたいです。
- ・ご利用者自身が会に参加して得た喜びや楽しさを友人に伝え、口コミで参加者が増える事は価値があり、素晴らしいネットワークであるので、今後の地域包括ケアの充実の為にも広げていきたいです。
- ・外部講師中心の会であり、いざという時に活動が成立できるのか、改めて会員で考えていきます。
- ・会員の中で、午後から詩吟の会に参加しておられる方が居られ、12:30 送りになる日があるので、日ごとの間違いがない様に確認して、又、安全に送迎できる様に心がけていきたいと思います

(担当：嘉藤敬)

エ. なごみ川柳会

1. 活動内容

- ・川柳作りを楽しみ、作品をなごみ川柳会の作品集にまとめたり、金太郎便り、山陰中央新報（私の作品コーナー）に掲載したり、出雲川柳会、荘原コミセン文化祭へ作品を出品しました。
- ・皆さんが興味を持たれる健康作りや社会時事、人生論について意見交換する機会を持ちました。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第3火曜。出席会員2～5名、欠席投句会員は2名～5名でした。
- ・今年も、コロナ感染予防の為、R4年7・8月、R5年1・2月休会とし、投句会としました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・川柳大会や島根県文芸作品大会への出句の為、皆で勉強会をして臨み、入選された方も出て、皆さんで喜び合いました。
- ・川柳を楽しんだ後は少しでもコロナ予防する観点から、13時には解散・送りをと先生が希望され、川柳会を早めに閉会しました。

4. 反省点 課題

- ・作品発表等川柳のPRをし、外部に向けて、発信していきます。
- ・コロナも落ち着き、今年はじっくり川柳の勉強をして頑張っていきたいと言っておられました。
- ・引き続き川柳会中や送迎時も含め参加者の体調、転倒等にもより注意を払っていききたいと思います。

5. その他

- ・更に川柳を楽しんで下さる方が増えるよう、様々な方に働きかけを行っていききたいと思います。

(担当：西博美)

オ. 木曜会（相撲甚句の会）

1. 活動内容

- ・「大笑い」「気合いだ」に始まり、全員で「アーアー」発声。「前唄」「後歌」を全員で、その後、2班に分かれ歌い、「はやし」を5～6本。全員で「木曜会練成歌」「本唄」3本を大合唱しました。
- ・本唄は男性・女性会員も次々歌われるようになってきて活気が出てきました。
- ・体操、色々クイズの他に、男性会員の健康教室も、ずっと継続され、活用されています。
- ・午後は、ハーモニカによる懐メロを中心にイントロクイズ、合唱を楽しまれました。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第1・3木曜日。6～12名のご利用がありました。
- ・コロナの影響で令和4年7、12月後半には中止して対応しました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・今年度も、女性の方々が積極的に歌って頂きたく、「力」を入れて、取り組みました。
- ・一人唄を一生懸命練習され、各々実力がついて来ました。

4. 反省点 課題

- ・コロナも落ち着き、以前のように外部施設へ発表の場を持てる様にしたいです。
- ・ボランティアのお陰で皆さん気持ちよく過ごせ、会も盛り上がりました。

- ・亡くなられた方、デイへの利用変更や体調不良の為、退会された方もあり、会員減少したが、2名入会して下さって、賑やかになりました。

5. その他

- ・他施設からの参加者がコロナの影響で休会が続いていて、皆さん寂しがおられ、残念ですが、参加を楽しみにしていきたいです。
- ・最近より童謡や懐メロ等を相撲甚句調に、作詞や曲に替えた所、好評で皆で歌っています。

(担当：坂本道夫)

2. 訪問介護事業

(1) 介護保険 訪問介護事業

1. 活動内容

- ・身体介護～ 体調確認、水分補給、食事、服薬、排泄、ポータブルトイレの更新、衣類の着脱、入浴、足浴、清拭、移動介助、通院介助
- ・生活援助～ 体調確認、調理、買い物、食材等の保存確認、薬取り代行、住居内の掃除・整理整頓、洗濯、ベッドメイキング、室内換気、室温調整、ごみ出し
- ・通院等乗降介助～ 移動の介助又は見守り、車椅子移乗、乗車・降車の介助又は見守り

2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・コロナ関連では、独居でコロナに感染された方 2名それぞれ軽症で、自宅療養期間に惣菜を買って届けた方、離れて住むご家族からも依頼があり防護服着用で体調確認に対応しました。独居の方がご利用のデイサービスがコロナで休業になった期間の食品買い物代行をしました。
- ・入院やショートステイ利用で訪問中断の方が数名、新規契約し短期間訪問して入院や亡くなった方、訪問始める前に亡くなった方もあり新規が続かないケースが数件ありました。高齢化、認知症の進行、病気の悪化等で自力での生活が難しくなった方があり、新規利用者やサービスの追加がありました。
- ・利用者数が減った為に空いた時間に、デイサービスで一対一対応の方の支援や、厨房での配膳や食器洗い等の補助に入りました。利用者個人ファイルに書類が整っていなかった部分の点検や整備を行いました。
- ・通院等乗降介助では、利用者の状態を観察し安全に乗降出来るよう介助又は見守りを行いました。

3. 今度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・コロナ感染者数減少しましたが、感染対策は変わらず継続しました。
- ・訪問介護計画に添って支援を行う事を分科会で周知し、ご本人の希望や状況の変化等で支援追加が必要な点はケアマネージャーに報告し計画に追加しました。
- ・外部研修会が少なく、WEBや外部の研修を受けた者が大事な点を分科会で伝えました。
- ・分科会、グループライン活用での情報共有。日々の訪問での気付きを職員同士、管理者、サ積と話し合い、ケアマネージャーに報告し支援の仕方を検討、改善しました。気付きをケアマネージャーに報告し、支援内容の変更、改善に繋げる事が出来ました。

4. 反省点 課題

- ・移送職員不足の為訪問勤務を調整したり、当日急遽移送業務に出る事がありました。
- ・計画にない支援や介護保険でできない事の依頼があり、ヘルパー個々が計画内容を把握するよう分科会で伝えましたが徹底できない点があり、周知する必要があります。
- ・職員それぞれが研修会に参加し、よりよいサービスの提供と個々の意識を高めていきます。
- ・日々、報告、連絡、相談を行い、利用者の状態悪化防止、サービスの改善に繋げていきます。
- ・常勤職員が増えた為、ケアマネージャーと連絡を取り新規利用者確保に努めます。

(担当：須谷敦子)

(2) 有償ヘルパー事業

- ・公的サービスで対応できない家事援助等、ご利用者の希望に合わせ幅広い支援を行いました。通院時の院内付き添い等、介護保険サービスと組み合わせて行うケースもありました。
- ・新型コロナウイルス流行の為、施設に入所されている方の外出、帰省や県外へ旅行の同行、余暇活動等は控えられましたが、近場への外出は再開された方が少数ありました。

(担当：須谷敦子)

○訪問介護・有償ヘルパー利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護	271	274	288	307	287	313	322	310	313	271	293	316	3565
総合	111	81	81	76	96	71	65	64	91	63	59	81	939
有償	48	70	61	51	55	53	55	54	54	42	49	75	667

3. 老人居宅介護支援事業（ケアマネージャー事業）

1. 活動内容

- ・毎月、ご本人またはご家族に連絡し、自宅での様子やサービスの利用状況などを確認した上で、次月の利用票を作成し、自宅にモニタリング訪問しました。訪問時、ご利用者の生活状況の把握やご本人やご家族の思いを聴き、サービスの相談を実施しました。
- ・包括支援センターから委託された、要支援、総合事業対象者のケアマネジメント業務の実施。
- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、ケアプラン作成、サービス担当者会議の開催・調整。
- ・入退院時の医療機関との連携、退院時の支援。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。 ・介護保険請求業務。
- ・毎週分科会を実施し、ケース検討や研修報告等を実施。 ・計画に基づいた研修参加。
- ・介護認定調査 ・24時間体制での緊急時相談対応。 ・研修や事例検討会への参加。
- ・出雲市から依頼のあった、災害時の要支援者に対する避難プランの作成。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度、ご利用者数は月 139～154 名前後、月平均は 148 名で推移しました。昨年と比較して 15 名減少し、12 月までは約 150 名程度で推移していましたが、年明けから入院者や施設入所者が続き、ご利用者数が減りました。
- ・ご利用者の男女比は 1 対 2 位。男性利用者が年々増えている傾向が見られます。要介護 1 と要介護 2 の

方が約7割程度を占めています。要支援、事業対象者の人数は月20名前後でした。

- ・令和5年3月末時点で常勤3名、非常勤が3名の計6名が勤務。内ケアマネージャーは5名、事務員が1名。常勤換算は4.1人。非常勤職員の内1名は相談支援業務を兼務。常勤職員の内2名が主任介護支援専門員であり、特定事業所加算Ⅲを算定しています。
- ・新規の依頼の傾向としては、昨年度当法人に新しいデイサービスが新設されたことも伴い、金太郎の家の集いの場のご利用者が新規で介護保険を申請され、ケアマネジメントを依頼されたケースが多くありました。また、他者から金太郎の家を勧められて依頼されるケースも多くありました。
- ・病院から退院されるタイミングでのケースの依頼も多く、入退院の支援において、今年度もコロナ感染症対策によるご利用者への面会制限やカンファレンス等の開催の制限が継続していましたが、昨年度よりも制限が緩和され、退院時のカンファレンスやリハビリ見学を病院で行うことができ、入退院時の状態把握や情報収集がしやすくなりました。末期がんや難病の方、在宅酸素が必要な方など、医療依存度の高いケースの依頼が多くあり、訪問診療や訪問看護を導入し、医療との連携を行うケースも増えています。
- ・デイサービスの利用を希望される方において、リハビリを受けたいと希望される方が多く、金太郎の家のデイサービスでリハビリ専門職による細やかな個別機能訓練が受けられるため、金太郎の家のデイサービスを紹介するケースが増えており、ご利用者もリハビリを喜ばれ、在宅生活の継続や自立支援に繋がっています。
- ・家庭環境が年々変化し、老々介護、他問題家族、8050問題などの困難ケースが増え、ご利用者だけではなく、家族支援を必要とするケースも多くなってきています。
- ・介護保険の更新において、今年度まではコロナ感染症拡大防止のため、認定有効期間を1年延長できることになっており、延長を希望される方が多く、更新の認定調査数は以前と比べて減っています。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・コロナ感染症の拡大において、コロナ感染症になられた方に対しての状況説明およびサービス調整、様子確認を行うなどの対応を行い、ご利用されている事業所がコロナ感染症により休業し、利用できなくなった場合に代替のサービスの調整などを行いました。また、事業所内でも感染対策を行い、コロナ禍におけるケアマネジメント業務が安全かつ適切に行えるように配慮しました。
- ・5月27日出雲市から実地指導があり、書類の整理方法やマネジメント内容についてなどの指導を受け、指導に対して、事業所内で改善方法を検討し、書式の統一などを図るとともに、法令順守に務めて業務にあたることを改めて再確認しました。
- ・今年度より出雲市から災害時避難プランの作成依頼があり、依頼のあった要支援者の災害時避難のプランを各担当ケアマネージャーが作成し、合計11件の避難プランを市に提出しました。避難プランを作成したことで、災害時の対応についてご利用者やご家族と話す機会を持つことができ、互いに災害への意識を高めたり、災害への備えを行うことができました。
- ・コロナ禍で会場に行く形の研修にはほとんど参加できませんでしたが、オンラインでの研修に参加する機会を各自が持ち、研修内容を分科会において共有するなどし、学ぶ機会を持ちました。
- ・斐川町内での事例検討会にもオンラインで参加し、事例を通して対応方法を学ぶ機会や、他事業所との

貴重な情報交換の機会となりました。

- ・家族の介護が必要な職員に対して、在宅勤務制度を申請し、在宅勤務を実施しました。

4. 反省点 課題

- ・今年度も当事業所の職員にコロナの感染症が出なかったのは幸いでしたが、令和6年度までの策定が義務付けられているBCPをまだ策定できていないため、来年度中にBCPを策定し、感染症が出た時や災害が起こった時に適切な対応を行えるようにしたいと思います。
- ・実地指導において、書類の整理について指導があり、統一した書式を利用するなどの改善を図りましたが、ケアマネジメント業務において書類作成に時間を多く費やすため、業務が効率的に行えるように、今後、書類の作成方法や昨今導入が進んでいるICTの活用等の導入等を検討していきたいと思います。
- ・外部研修や事例検討会、法人内研修にて学ぶ機会を持つ事ができましたが、自事業所内で研修を行う機会を持つことが出来なかったため、来年度はテーマを決めた研修や事業所内での事例検討を計画的に実施し、事業所内でのスキルアップを図ってきたいと思います。
- ・医療依存度の高いケースや困難ケースなど、ケアマネージャーが支援に悩んでしまうこともあるため、一人で抱えきれないケースに対し、分科会において事例検討を行い、課題整理を共同で行うなどチームで支援していくことや、ケアマネージャー二人体制を取るようにし、担当ケアマネージャーが安心して支援を行えるように心掛けていきたいと思います。

(担当：泊美穂)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
156	153	155	153	150	158	152	153	150	143	139	144	1806

■障がい者支援に関する事業

1. 障がい福祉サービス事業

(1) 居宅介護 (障がいヘルパー)

1. 活動内容

- ・自宅へ訪問し、家事援助(調理、掃除、買い物、育児支援等)や身体介護(入浴、共にする家事等)を行い、病院の通院のための車への乗降の介助を行いました。
- ・家事援助は、支援時間30分から2時間、身体介護は30分から2時間のそれぞれニーズに合わせて提供しました。
- ・通院等介助は、病院の中での介助が必要な方については付き添いもしました。

2. 利用状況・利用傾向(活動の様子)

- ・相談支援専門員の計画書に基づき、個別支援計画を作成し、決められた時間、必要な内容を提供しました。内容変更時の計画書の変更、事業所内で周知しました。
- ・家事援助は、調理、買い物、掃除があり、身体介護、入浴など身体に触れる介助や共にする掃除や調理の依頼がありました。
- ・自宅での体調確認、検温実施、普段からの体調管理において継続しました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・訪問提供記録の実施事項の記入など報告連絡を通して、ご利用者の体調やニーズの変化など事業所内で共有しました。

4. 反省点 課題

- ・新型コロナウイルス感染症等によりヘルパーの急な欠勤等あり、訪問出来ないことや時間変更の当日の急な変更もありご利用者、ご家族にお願いすることがありました。

5. その他

- ・コロナウイルス感染症の感染防止のため、職員の体調確認、手洗い、手指消毒を訪問先ごとに行いました。ご利用者の体調確認を合わせて行いました。

(2) 移動支援

1. 活動内容

(ア) 通学移動支援

出雲養護学校、松江緑ヶ丘養護学校に個別支援、グループ支援を行いました。

学校への直接の送迎、出雲市駅での待ち合わせて交通公共機関を使つての通学の支援を行いました。

(イ) 福祉送迎

学校以外の送迎、福祉施設など外出時の付添いを行いました。

(ウ) 日常生活

買い物等の付添いを行いました。

- ・支援時間は30分から食事2～3時間まで様々なニーズがありました。

2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・月～金曜から数か月に1回利用と幅広い利用の方がおられ、上記の希望の内容も様々で利用者のニーズに合わせての支援を行いました。
- ・買い物や外出の希望が多くありました。利用者、ご家族から喜ばれ、外出楽しみにされていました。
- ・新型コロナウイルスの感染防止の為、外出自粛があり余暇の活動利用件数が低下しましたが、買い物や移動など必要な外出同行の依頼がありました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・記録や手順など繰り返し伝えて統一した支援ができるようにしました。
- ・普段から連絡相談の体制を心掛けご利用者の状態把握に努めました。

4. 反省点 課題

- ・予約時間の遅れなどあり事前の電話連絡しました。

5. その他

- ・コロナ感染症の感染防止のため、ご利用者の体調確認やマスク着用、手指消毒をお願いしました。
- ・使用車両において車内消毒や換気を徹底して行いました。

(3) 同行援護

1. 活動内容

- ・視覚障がい者の方の要望に合わせて外出の支援を行いました。
- ・通院や施設への外出の付き添いを行いました。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・コロナ感染症感染防止のため、外出を自粛される傾向にありましたが令和4年11月頃より施設入所されている方の外出が感染状況見て可能となり1件外出同行しました。
- ・通院の検査、診察など付添いを行いました。
- ・時間は、8時から16時まで支援時間1時間から5時間と希望に合わせて内容を実施しました。
- ・視覚情報の声掛け、安全に出来る様にしました。トイレでの介助や食事の介助は希望に沿った支援を心掛けました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・ご利用者の安全を考え、的確に視覚情報を伝えご希望に添える様に支援しました。
- ・感染症感染防止についてご利用者の体調確認、目的地にて手洗い、消毒行いました。

4. 反省点 課題

- ・定期利用が2名あり職員の対応できる人数が多くあると柔軟に対応出来たと思いました。
- ・介護保険ご利用者の方の居宅支援専門員への情報伝達を密に行い、情報共有出来るとご利用者の把握につながると思いました。

(担当：竹内淳子)

○障がい福祉サービス利用延人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	160	109	142	121	148	123	127	159	132	101	104	120	1546
同行援護	0	2	2	2	2	1	1	4	1	12	2	2	31
移動支援	113	109	132	84	46	118	118	123	88	98	113	102	1244

2. 麦の家 障がいデイサービス事業

(1) 就労継続支援B型

1. 活動内容

- ・地域で生活されている障がいのある方に社会的自立を目的として、作業生活や生活支援の提供を行いました。

【作業内容】

- ・地域協働加算対象作業…出雲空港公園トイレ・別館トイレ清掃、直江駅トイレ清掃、荘原駅トイレ清掃、いりすの丘工房・トイレ清掃、飯塚ファームねぎ収穫、民家の草とり、極小黒豆の栽培・商品化・販売、大納言小豆商品化・販売、畑野菜販売、お茶材料の収穫・商品化・販売、洗車、もったいない野菜の商品化・販売
- ・請負作業…マーカーの箱詰め（寺西化学工業）、カカオ豆の殻むき（IA CHOCOLATERIE NANAIRO）

- ・ **自社製品製造・販売**…「姫茶」「命茶」「クロモジ茶」「クロモジの湯」「ハブ茶」「極小黒豆」「手作りこんにやく」

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・ 今年度の新規利用者 8 名。生活介護への移行はありませんでした。退所者 4 名。在籍者数 22 名。
- ・ 障がい別では、ほぼ同じ割合ですが、精神の方の急な欠席が多くありました。
- ・ 一日の平均利用者数は、ほぼ 11～12 名となっていますが、実績利用者数としては 10 名を割る日もありました。特に土曜日の利用者が減少しています。
- ・ 利用希望として空き状況の問い合わせが何件かあったり、相談支援事業所から「麦の家が合いそう」といって相談ご依頼者に紹介いただき、見学・体験・利用につながったケースがありました。
- ・ 一度退所された方が「もう一度麦の家で働きたい」と再利用してくださったケースもありました。
- ・ 年齢層も幅広く、外仕事に行きにくい方や半日利用希望など、ニーズも多岐に渡るなか柔軟に対応しました。

3. 今年度 力を入れて取り組んだこと 効果

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策として送迎時の検温チェック、体調確認、手指消毒、マスクの着用、事業所内では蜜を避けるため座席の配置を工夫、卓上アクリル板の設置、時間毎の消毒及び換気等の徹底に努めました。
- ・ コロナ禍の影響で観光客が減り、お茶の販売数が激減したが請負作業への影響はなく工賃を下げることなく支払うことができました。
- ・ コロナ禍で、外部の販売イベント自粛が収入に響いたが、今年度から麦の家独自の販売イベント「麦の市」を開催し、収入アップにつながりました。今後も定期的に継続していきたいです。
- ・ 極小黒豆や畑野菜の栽培・販売に力を入れ、デイサービスの方の協力のもと例年より力を入れて自社製品をアピールすることができました。
- ・ もったいない野菜の販売は 3 年目を迎え常連客も増え順調に販売し、より良い収入となっています。
- ・ 工賃は他事業所に比べれば低額ですが、確実に伸びてきています。ご利用者の一人ひとりの適性を見極めながら適材適所で作業分担し就労意欲をより高めていけるような支援を今後も継続していきます。
- ・ 今年度、月額平均工賃額が 1 万円を超えたことから令和 5 年度より国からの給付額が変更となることになりました。来年度以降も 1 万円以上の平均工賃を支払えるよう取り組んでいきます。

4. 反省点 課題

- ・ 「クロモジ茶」の売上が伸びてきているが、材料となるクロモジが不足しています。定期的に収穫できる場所を確保することが課題です。また、新たな販路を開拓していくための宣伝方法について検討していきたいです。
- ・ 麦の家の就労 B 型の特徴として、工賃をできるだけ多く稼いで将来的には A 型や一般就労を目指していくよりも、慣れた場所で自分のペースで、レクなどの楽しみやご利用者同士の交流の場を重視して利用されている方が多いです。その中で工賃向上の為のスキルアップを促していく施策を職員皆で考えながら事業所としての方向性をより具体的にすることが課題であります。

（担当：福島綾）

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	219	223	240	213	234	211	265	265	224	208	256	258	2816
平均	8.42	8.58	9.23	8.19	9.75	8.44	10.19	10.19	8.96	9.45	10.67	9.56	9.30

(2) 生活介護

1. 活動内容

- ・個々の特性や今までの生活スタイルを大切にしながら必要に応じた介助を行い、安心して過ごせる場を提供します。
- ・一人ひとりの持てる力、能力を生かした活動や個々の希望を取り入れながら心豊かに心身の活性化を図ります。
- ・活動…作業・散歩・調理・茶話会・ドライブ・買い物・壁面制作・音楽鑑賞・歌の会・行事参加・入浴介助・排泄介助・食事介助・視覚障がいの方の歩行誘導・車椅子の方の介助・PTによるリハビリテーションの提供

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度の新規利用者3名。退所者1名。在籍者数26名。そのうち長期休んでいらっしゃる方が2名。
- ・心身の不安定さから、利用予定日に休まれる方が増えた方が数名おられ一日の平均利用者数が減少傾向にあります。
- ・障がい区分5～6の方が10名おられ、個別対応が必要であったり、難病や重い病気を抱えられている方には各々適切な介助・介護が求められました。
- ・障がい別では身体障がい、知的障害がほぼ同数。精神障がいの方は人数として少ないが、個別での相談が多く、担当職員を中心にじっくりと傾聴しながら支援することに努めました。
- ・視覚障がいの方が1名、車椅子の方が5名、杖歩行の方が3名、歩行器を使われている方が1名おられ、安全な導線の確保が求められました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策として送迎時の検温、体調確認、手指消毒、マスクの着用を徹底しました。事業所内では密を避けるため座席の配置を工夫、卓上アクリル板の設置、時間毎の消毒及び換気等の徹底に努めました。
- ・入浴サービス利用希望が4名、リハビリ希望が4名。リハビリについては回数を増やして欲しいという声が寄せられています。
- ・生活介護でも作業能力に応じた工賃がきちんと支払われていることは魅力のひとつであり、特性やこだわりを受け入れながら、持てる力を最大限発揮できるような作業環境の工夫に力を入れました。
- ・コロナ禍で行事やレク活動を自粛せざるを得ないなかでも、コロナ対策を徹底し工夫しながら活動しました。今までは就労のご利用者も生活介護の活動に参加されることもあったが、今年度からは生活介護独自の活動として取り組んでいく方向性にチャレンジし、ニーズの掘り出しに努めました。来年度はご利用者が希望されている活動を計画的に実施し、生活に広がりをもてるよう努めていきます。

- ・看護師による健康面での適切なアドバイスや食事指導を行いました。

4. 反省点 課題

- ・少しずつではありますが利用者が増える一方で、コロナ対策として密を避けるために行った対策により、ゆったりと落ち着いた環境から少しずつ遠ざかり、こだわりや特性面で適応しづらくなっているご利用者に対し、より細やかな配慮が必要となってきました。
- ・障がいの特性をしっかりと理解、共有したうえで、一人ひとりの人生の在り方に目を向けながら QOL の向上に向けて一歩一歩積み重ねていく必要があります。

5. その他

- ・現在リハビリテーション加算 4 名算定。痛みや不安定な動作などに対し、生活動作指導を行うことで痛みの改善や転倒予防に繋げることができました。また、利用中の転倒に対し原因究明を行い、介助の指導や環境設定を行いました。今後もご利用者の思いを聞きながら QOL の向上に向けて関りを継続していきます。また、ご利用者と関りが多い麦の家の現場職員と、連携をとりながら支援していきます。

(担当：福島綾)

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	239	233	226	273	240	286	223	230	241	193	224	238	2846
平均	9.19	8.96	8.69	10.50	10.00	11.44	8.58	8.85	9.64	8.77	9.33	8.81	9.39

3. 福祉移送（福祉タクシー、有償運送）

1. 活動内容

- ・福祉タクシー（4条）… 2種免許を取得した運転士が車椅子を使用されている方や障がいのある方、内部疾患のある方の外出や通院のサポートを行いました。
- ・有償運送（78条）…ヘルパー2級及び介護職員初任者研修受講修了者が、運転者講習を受講し、陸運局の許可を得て、訪問介護事業の通院等乗降介助、移動支援、居宅介護の通院乗降介助、同行援護等と組み合わせた移送を行いました。が昨年度同様今年度もコロナのため同行援護は減少しています。定期利用の方や事前に予約を頂いて利用して頂いていますが、急な依頼にもできる限り対応させて頂きました。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・出雲市の発行するタクシーチケットにも対応し、予約制ではありますが出来る限りで対応させて頂きました。
- ・発熱された方で検査結果が出るまで院内に入れず、同車で待機することもありましたが対応させて頂きました。
- ・安全運転を心掛け、また人に優しい運転（横断歩道を渡ろうとされている方や雨の日の歩行者等）を継続していきたいと思えます
- ・換気・消毒・マスク等コロナ感染予防対策にも努めました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・大きな事故もなく、安全運転を常に心掛け業務に取り組みました。
- ・新規の方等、地図やその方の身体状況などを共有し、運転士が変わったために対応が変わったりすることのないよう努めました。
- ・依頼に漏れのないような体制を心掛け、また、予約時間に遅れることのないよう、交通事情の報告等の共有も行いました。前の付添が長引いたため次の移送に遅れそうな場合など早めに事務所に連絡を入れ、他の職員が代わりに向かう等できるだけ利用者の方にご迷惑をかけないよう努めました。
- ・付添の依頼も多く、ケアマネや家族と連携し、ご利用者の方の様子を書面にしてもらったものを持参して対応しました。
- ・車内清掃を全職員が心掛け、利用者の皆様に気持ちよく乗っていただけるよう出発前や帰所時にはマットの泥を払うようにしました。又車内消毒も徹底しました。
- ・出発前点検を全職員で行いました。タイヤ交換も早めに行っています。

4. 反省点 課題

- ・団地内徐行や一旦停止等、安全運転に関する情報をコロナ渦でなかなか発信できませんでした。
- ・毎年のことですが車両に傷が目立ちました。報告のないものもあり、報告の徹底を全職員に再度周知していきます。
- ・バックでの物損が多く、公用車を大切に乘って頂けるよう職員会等で研修を行い、職員の意識向上に努めていきたいです。
- ・研修に積極的に参加し、介護技術の向上や病気や障がいに対する理解を深め、より質の高いサービスが提供できるようにしていきたいです。

(担当：森山幾美)

○利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4条(福祉 タクシー)	37	35	73	29	37	39	34	33	69	58	70	82	596
78条(有 償運送)	192	199	228	194	160	226	229	216	208	177	190	233	2452

4. 障がい者相談支援事業

1. 活動内容

- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、アセスメントを行たうえでサービス等利用計画を作成し、支援会議を開催。 ・モニタリングの実施。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。 毎月のサービス調整会議の出席。 ・請求業務

2. 利用状況・利用傾向(活動の様子)

- ・今年度は20名前後の利用者数でありました。
- ・障害種別は特に限定していませんが、半数以上は精神障害の方が占めています。男女比はおおよそ半々。

- ・就労系サービス 8 件、生活介護 5 件、居宅介護利用 5 件
- ・福祉推進課からの新規ケースの依頼が 2 ケース、以前相談支援を利用し終了された方の利用再開が 2 ケースありました。終了は 5 ケースで入院が 2 件、介護保険移行が 2 件、福祉サービス利用終了に伴うものが 1 件ありました。
- ・市役所からの依頼があり、災害時の避難プランを 3 ケース作成しました。
- ・10 月から半年間、相談員 1 名が産休に入った為、引継ぎを行いスムーズに移行できました。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・高齢のご利用者が多く、介護保険に移行するケースが増えました。介護保険のケアマネージャーとも事前に情報共有を行い、障がいのサービス独自のものは移行後も引き続きりようできるようにしたり、自己負担が発生することも本人に了承してもらいながら移行できました。
- ・出雲市主催のサービス調整会議は相談員が月毎に順番に参加し、テーマに沿って他事業所の相談支援専門員と意見交換を行い、情報収集もできました。
- ・今年度も新型コロナウイルス対策で、モニタリングはなるべく短時間で行うようにし、感染ピーク時は担当者会議を電話での聞き取りに替えるなどして対応しました。コロナ感染での入院となったご利用者には病院に情報提供書を提出するなど対応しました。

4. 反省点 課題

- ・介護保険の移行直前に病状悪化で入院となったケースは、家族のサポートも少なくケアマネージャーもついていなかったため、相談員が 65 歳に到達して相談支援のサービス利用ができなくなってからも入院後の支援を行いました。制度の狭間にある方の支援は課題であります。今後も 65 歳になり介護保険へ移行するケースが控えているため、事前に本人にサービスの違いを理解して頂く説明を繰り返し行ったり、ケアマネージャーとの情報共有を行ったりしながらスムーズに移行できるようにしていきたいです。
- ・相談員の長期休暇に伴いそれぞれの担当ケースの状況説明を数回行いましたが、今後お互いにサポートできるように定期的に情報交換を行い、他の相談員が担当しているケースを把握したり、担当者が不在の時もスムーズに対応できるようにしていきたいです。

(担当：農間玲美)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8	10	7	12	11	13	10	10	11	12	9	9	122

5. 障がい者地域生活支援事業

(1) 日中一時支援事業

1. 活動内容

- ・利用者家族の要望に応じた利用時間の受け入れと、安心して過ごせる場の提供を行います。

2. 利用状況

- ・年間を通しての利用者（児）は 8 名。

- ・毎週定期的に利用される方が4名、他の方は単発的に利用されました。
- ・小中学生の放課後利用はほぼ無いが、土祝日、学校の長期休みの利用があり、個々に応じた活動や過ごしの見守り、外出などを行いました。
- ・他事業所（生活介護）を利用された後の居場所として毎日利用されたり、妻の家で就労B型、生活介護を利用されている方で、利用日数が上限を超える場合に日中一時支援を利用して来所されています。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、外出などの時間を設けました。

4. 反省点 課題

- ・特に土祝、学校長期休暇のご利用者は、生活介護の方と一緒に過ごされることが多く、年齢も幅広いことから、ニーズに対応しきれていないという課題があります。利用状況によっては、日中一時対応専用スタッフの配置が必要であります。

(担当：福島綾)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
37	29	35	32	29	24	25	34	11	14	27	27	324